

研友会機関紙

第 7 号

2005年1月31日発行

# 研友会

(発行人)

研友会

〒553-0007

大阪市福島区大開 2-3-5  
神崎ビル

fax-072-885-5418

<http://www.okgk-kenyu.com/>

## アテネオリンピック応援記

2003年8月の世界陸上パリ大会で4位に入賞した、その日のパリのお店で慰労会が開催された時に、挨拶の中で、子ども(直子)が

『皆さんを来年のアテネに連れて行きます』

と言った時は正直びっくりしました。

なぜならば、世界陸上2位の野口選手が決まり、シドニーオリンピック金メダルの高橋選手がいる、日本の女子マラソンの層が大変厚い中で残りは、あと1つか残っていない状態なので出場する確立は大変低い。

しかし、出場出来ればいいなと思うだけでした。

04年1月の大阪大会には高橋選手を除く日本の一流選手が出場した大会で1位になった時には、半分オリンピックに近づいたかなと思いましたが、名古屋の土佐選手の記録が良かったので、3月15日の選考会はきがきではありませんでした。

出場が決まった時は、嬉しい反面、これからが大変だと思いました。

8月20日朝、関西空港出発パリ経由でアテネに入りました。アテネ空港に着いた時は現地時間で夜ですが、大変暑い日でした。

22日の大会までエーゲ海の観光やアテネ市内の観光とエンジョイしましたが大会が終るまでは、きがきではありませんでした。

大会当日、妻と天満屋さんの関係者とタクシーで出発地点のマラソンまでいきました。

道中、こんな暑い中(38℃を超えていたと思います)走るのか、それとアップダウンの激しいコース。特に30km付近はすごい坂、驚きばかりでした。

マラソン近くの一軒家に行きました。子ども、監督、スタッフ等が合宿を行っている所です。子どもと会って元気な姿を見て安心しました。

そして、スタート地点までいきました。日本の昔の田舎の風景と同じです。

スタート地点に入場するにもセキュリティーチェックがあります。2時間程待っていると選手がスタートラインに集まってきました。

しかし暑い 40℃は超えているかもしれない。

子どもの元気な姿を見て最後まで走れることを祈りました。



スタート地点(マラソン)近くの合宿所にて↑

天満屋の応援ユニホームを着用しているために日本の報道陣からインタビュー攻めに会いました。待っている時に世界の色々な人々と話をしました。

現地時間18:00スタート、すぐにタクシーに乗り、マラソンコースの北側を走りましたが、皆同じ方向で混雑しました。

放送局の人から携帯電話を借り、TVを見ていました、言葉は判りませんが映像で今何位にいるか理解できました。

しかし、山間を通るため映像が乱れるし、携帯電話のバッテリーはなくなってくるし、高速道路に入ると渋滞がひどく、途中で降りて応援したらゴールが見れない為、途中から地下鉄に乗り換えゴール地点に向かった。



(30 km.付近)↑

高校の恩師は38Km地点で応援するために別れた。

タクシーの中や地下鉄では随時携帯電話で日本から状況が入ってくる。

20kmまではトップ集団であったが、途中からずるずると下がっている。

一時は9位まで後退したが沿道の皆さんの声援のお陰で盛り返し、スタジアムに7位で入ってきた時は感無量でした。(7位 坂本 直子 2時間31分43秒)

マラソンは1人で走るのではなく皆さんの支えが有って走れるものだと改めて思いました。

1位 野口みずき 2時間26分20秒  
5位 土佐 礼子 2時間28分44秒

坂本 芳徳